

編集 後記

3年ほど前の編集後記に、「健康政策・施策に直接影響する日本の論文が増加してくることは、判断材料が質・量共に高まることであり、公衆衛生の現場である保健所にいる私には大変心強く感じられます。」と書いたことがあります。時は経ち、今年第57巻第3号の編集後記で「公衆衛生実践家からの投稿が増えないと、本誌の掲載論文数の増加は実現できません。」とあります。実際、最近の本誌掲載論文の筆頭著者所属を見ると、やはり大学・大学院や研究機関が最も多く、公衆衛生実践現場に所属する筆頭著者でも大学・大学院や研究機関関係者の協力のもとに執筆されている場合が多いようです。このような論文執筆の経験を経て、公衆衛生実践家となる方々も少なからずいるはずですが、そのような若き実践家の方々が現場で論文を執筆する風土が醸成されているかどうか重要な点ではないでしょうか。本誌の編集委員を務めさせていただいてからずっとこのことを考えてきましたが、若い実践家達が自ら論文を書き、他の実践家の論文も引用して健康政策・施策に応用しようという意気込みを持てるような現場でありたいものだと思います。そのために行うべきことは具体的に何でしょうか。今秋の日本公衆衛生学会総会は「公衆衛生の発展に向けて—調査研究から政策へ—」を主題として開催されますので、これを機会に大いに議論を深めたいものです。

(古屋好美)

次号予告 (第57巻・第6号)

原著

女子大学生に妊娠と飲酒に関するリーフレットを1回配布した場合の教育効果…三村明沙美, 他
地域高齢者の外出に対する自己効力感尺度の開発
……………山崎幸子, 他

資料

35中核市における中核市移行に伴う保健・福祉業務の変化……………原 郁夫, 他
高齢者による学校支援ボランティア活動の保護者への波及効果
—世代間交流型ヘルスプロモーションプログラム“REPRINTS”から— ……藤原佳典, 他
子どもを対象とした間食に関するテレビコマーシャルとその商品の内容分析……………赤松利恵
栄養教育のための食物摂取頻度調査票 (FFQW82) の妥当性と再現性の検討……………安達美佐, 他

連載

健康の社会的決定要因(3)……………村田千代栄